

学生と教員の見方

【学生の見方&考え方】
(3年 許冬晴)

日本のペット文化は非常に発展しており、統計によると約3分の1の家庭がペットを飼っている。

また、この割合は増加し続けている。特に猫と犬が最も人気のあるペット種類である。しかし、ペットを飼いたいと思っている人々の中には、実際には飼うことができない人もいる。

一般社団法人ペットフード協会の「令和2年全国犬猫飼育実態調査」によると、犬猫の飼育を希望しているが、飼育していない人の理由として、最も多い回答が「集合住宅に住んでいて、

ペットと住める住宅

禁止されているから」と回答している。

近年、「ペット共生住宅」という概念が生まれた。「ペット共生住宅」では、ペットが家族の一員と見なされ、設計の

意図は人々の生活を便利にするだけでなく、ペットの生活習慣を満たすことを目的としている。

専有部分には傷つきにくい床材や掃除しやすい壁紙などが使われ、共有部分には足洗い場やリードフックなど、ペット用設備が設置されていることが多い。



【アヒールポイント】

日本の優れたペット文化に深い興味を持っています。集合住宅で共に暮らせるペット共生住宅を詳しく研究したいです。

家具は元の用途にペットに関連する要素を追加する必要がある。例えば、収納、絆を強めるだけでなく、社機能とキャットタワー機能を兼ね備えたキャビネット、ドアが閉まっている時

「ペット共生住宅」に意義 集合住宅で快適に暮らすには

【教員による展開】
にペットが自由に出入りできるような設計などがある。(金東煥准教授)

「ペット共生住宅」の概念は、人とペットの関係が、2000年以降シンクより深く考え、共に快適に暮らせる環境を提供することと、一緒に室内で暮らすとを指している。このように概念が広まった。

ペットに関する調査(2022年)によるとペット可の賃貸物件を希望する人が多いという意見があり、ペットが身近な存在になってきたと考えられる。

当初の「ペット共生住宅」は、掃除、消臭、ペット可の破損防止壁など、人間の利便性に重視した設備が中心であったが、現在ではペットの生活習慣などを理解する必要があり、そのための専門知識を持つ「ペット共生住宅管

理士」という検定試験も作られた。ペットとの共生が普及されている時代に合わせ、ペット共生住宅やペット可の賃貸住宅の供給が増えていると考えられる。インターネットでペット可の不動産を検索すると、専